

平成24年度第1回府中市障害者等地域自立支援協議会 会議録

- 日 時：平成24年6月14日（木） 午後2時～午後4時
- 場 所：府中市役所北庁舎3階第3会議室
- 出席者：（敬称略）
 - <委員>見ル野一太、中川さゆり、山岡広法、真鍋美一、真下加代子、岩崎京子、河井文、山本博美、大木道子、石橋直美、犬飼知子、行本理、桑田智
 - <事務局>障害者福祉課長、障害者福祉課長補佐、障害者福祉課生活係長、事務職員2名
- 傍聴者：なし
- 議 事：1 報告事項
 - （1）前回会議録の確認について
 - （2）府中市障害者等地域自立支援協議会委員名簿について
 - （3）自立支援協議会に関する国からの通知について
 - （4）府中市障害者等地域自立支援協議会の役割について2 協議事項
 - （1）平成24年度専門部会の名称及び取組内容について
 - （2）全体会で協議する案件について
 - （3）運営会議で協議する案件について
 - （4）平成24年度府中市障害者等地域自立支援協議会スケジュール（案）について
- 資 料：資料1 府中市障害者等地域自立支援協議会委員名簿
- 資料2-1 自立支援協議会の設置運営について
- 資料2-2 自立支援協議会の設置運営に当たっての留意事項について
- 資料3-1 府中市障害者等地域自立支援協議会の役割について
- 資料3-2 府中市障害者等地域自立支援協議会における検討経過
- 資料4 平成24年度府中市障害者等地域自立支援協議会スケジュール（案）
- 資料5 平成23年度第3回府中市障害者等地域自立支援協議会会議録（案）
- 資料6 協議事項資料
- 参 考 会議室予約状況

1 開会

■事務局

本日はお忙しい中、平成24年度第1回府中市障害者等地域自立支援協議会全体会にご出席を賜りましてまことにありがとうございます。

では、会長に進行をお願いいたします前に、本日の会議の資料の確認をさせていただきたいと存じます。

(※資料の確認)

(※石見委員、増田委員、小池委員、蜂須委員、古寺委員の欠席と大木委員の到着が遅れる旨報告)

それでは、会議の進行のほうを会長をお願いいたしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

1 報告事項

(1) 府中市障害者等地域自立支援協議会委員名簿について

■会長

皆さんこんにちは。お忙しいところ、ありがとうございます。

会議に入ります前に、まず、傍聴人の確認をしたいと思いますが、本日はいらっしやらないということですので、このまま始めさせていただきます。

自立支援協議会は任期2年なのですけれども、年度が変わりまして委員の変更がございましたので、この場で最初に自己紹介を一通りさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

(※着席順に自己紹介)

■会長

ありがとうございました。

(2) 前回会議録の確認について

■会長

では、議事の順番がちょっと入れ代わってしまいましたけれども、1番にありました前回会議録の確認について進めたいと思います。まず、事務局から説明をお願いします。

■事務局

(※資料5について説明)

■会長

ありがとうございました。

通常ですと事前にお配りして、この場で皆様の確認をとって公開という手続なのですが、今回遅れてしまいまして申し訳ございません。お時間のないところ恐縮ですが、

ご自身の発言等、確認していただきまして、何かありましたら21日までに事務局までご連絡をお願いいたします。

(3) 自立支援協議会に関する国からの通知について

■会長

では、続きまして、報告事項3、自立支援協議会に関する国からの通知について、まず事務局からご説明をお願いします。

■事務局

(※資料2-1及び2-2について説明)

■会長

ありがとうございました。

本年度の専門部会をこれから決めていくことになるのですが、その専門部会で何を検討するかということを考える前に、まず自立支援協議会に求められているのは何なのかを一度全員で確認したほうがよいということで、事務局に資料を用意していただきました。もともと今回の自立支援協議会は第3期になるのですが、当初から、自立支援協議会に求められているのは、地域における福祉にかかわる事業所や当事者団体、行政が一体となって協議をしながら福祉環境の向上に努めるという、地域福祉の底上げを図るためにどうしたらいいかということ、みんなで情報を共有しながら課題を解決していきましょうということでスタートしています。

前回の第2期の自立支援協議会においては、そういった地域の課題をまず見つけ出さないといけないということで、支援会議報告書というフォーマットを皆さんで検討していただきまして、作成いたしました。それで、いろいろなところに配らせていただきましたが、何がいけないのか、書きづらいのか、書く時間がないのか、周知徹底の仕方が悪いのか、原因はちょっとはつきりしていませんけれども、なかなかその支援会議報告書によって地域の課題が上がってこない状況があります。だからといって、府中市内において、そういった課題がないかということ、そんなことは全然なくて、やはりいろいろなところで皆さんがいろいろな問題を抱えているのですけれども、なかなかその支援会議報告書というフォーマットでは上がってこないということで、今期は年代別の専門部会をつくりまして、昨年1年間で、各ライフステージの中で今、何が課題になっているかということ、皆さんに検討していただいて、一定の結論を得ました。

そういったものを踏まえて、あと1年間任期があるのですけれども、その中でその課題をどう解決したらいいかということで、今後の会議の内容につなげていきたいと考えております。

自立支援協議会というのは、さまざまなサービス事業提供者の方であるとか、相談支援事業所、当事者、あとはハローワークであるとか保健所であるとか、いろいろな機関の方が出てきていただいているのですけれども、その中で何をするかというと、ここで一番求められているのは、相談支援機能の充実なのですね。どうやって地域で

課題を抱えている人たちが、どこかにつながって、相談をして、その課題を解決する手だてを手に入れるか、また、そのシステムをうまく回すためにどうしたらいいかということ、この自立支援協議会の中で話していくということが求められています。そういうところをいま一度皆さんに確認していただきたいということで、この議題を用意いたしました。

(3)については、以上です。

(4) 府中市障害者等地域自立支援協議会の役割について

■会長

続きまして報告事項の4番「府中市障害者等地域自立支援協議会の役割について」。事務局から説明をお願いします。

■事務局

(※資料3-1及び3-2について説明)

■会長

ありがとうございました。

今までのところで、自立支援協議会について求められているものについていろいろ説明をしてまいりましたが、この件で何かご質問、ご意見があれば伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

(※発言なし)

■会長

よろしいですか。

それでは、報告事項につきましては、以上とさせていただきます。

2 協議事項

(1) 平成24年度専門部会の名称及び取組内容について

(2) 全体会で協議する案件について

(3) 運営会議で協議する案件について

■会長

それでは、2番、協議事項に入らせていただきます。

まず、平成24年度専門部会の名称及び取組内容についてということで、事務局からまずご説明をお願いします。

■事務局

まず、(1)平成24年度専門部会の名称及び取組内容についてです。

こちらは、前年度3回目の会議からの懸案事項である今年度設置する専門部会の名称及び取り組み内容を本日決定したいと思います。

■会長

前回、大変申し訳なかったのですが、私がお休みいたしまして、なかなか次

の専門部会が決められないというところで、皆様からいろいろご意見を伺いまして、4月中盤に正副会長と事務局のほうで、皆様からいただいたご意見について検証いたしました。その結果、新しく正副会長案ということで提示させていただいたのが、今回の資料6です。

この協議事項で挙げられた専門部会案に至った経緯について、若干のご説明をさせていただきます。

前回の協議で皆様からいろいろ意見をいただきましたが、例えば、日中部会であるとか生活部会といったような部会がいいのではないかとということも伺いましたが、それに関しまして、日中の通所施設が、例えば就労移行支援が足りないとか、就労継続支援A型が足りないとか、全体として先々の通所先の不足が見えているとか、いろいろな課題が挙げられまして、その点につきましては、前回、各部会から報告書をいただいて、それに基づいて障害者計画のほうに報告をさせていただきました。そういうことで、この点につきましては、現状の施設不足などについては、事務局のほう、行政のほうでもきちんと理解していただいているということで、今回は、この問題については専門部会を設けるのは見送ったほうがいいのではないかと結論に至っています。

それで、年代別の専門部会をこのまま継続することにも確かに意味があるのですが、なかなか同じ形で部会を継続しても、結局、何か同じ問題で堂々めぐりになってしまう危険性もありますので、3月の市長報告に向けて一定の結論といったものを導き出したいということも思っておりまして、抽出された課題についての解決の方向性だけでも何とか見つけ出して、報告書としてまとめたいという強い意志があります。なので、限られた時間ですので、この点についても今回はちょっと見送りたいということで、正副会長と事務局の間で意見が一致しております。

災害対策についての専門部会を設けたいということで、別な団体が市の障害者福祉課、防災課、府中消防署との協議を持っているというご指摘もいただいたんですが、確かに、これは府中の障がい福祉を拓く会という任意の団体がありまして、これは、作業所連絡会と聴覚障害の方、それからパーキンソン病の方、自閉症の親の会の方と肢体不自由の親の会、筋ジスの親の会の方等々、あとC I Lの方で構成してまして、そこから障害者福祉課、市の防災課、府中警察、府中消防署に呼びかけて、2回ほど会合を持ちまして、障害者に対する災害時の配慮についての懇談会をいたしました。

ただ、任意の団体でありますので、そこで協議されたものというのは、特段、議事録がつくられて公表されるものでもありませんし、開催も定期的に行われているということもないので、やはりある程度、公的な会議の場で一定の結論を得たものを市長に報告するというところで、近々起こるであろうと言われている災害に備えることが現状必要ではないかということで、この部会を開いてはどうかということで提案させていただきました。

それから、医療的ケアの対応についてもご意見をいただいたのですが、この件については、医療的ケアのある人に対する対応も充実させなければいけないという

ことを、障害者計画のほうに報告しております。その上で、さらに専門部会で何を話すかということについて、私自身、何をみんなで協議するのだろうかということが現時点でなかなかイメージできないということもありまして、これは次回以降の宿題とさせていただきたいと考えました。

また、参加するような専門部会がなかなか見当たらないというようなご意見もいただいたのですが、皆様が何らかの団体、事業所を代表してこの協議会に出てきていただいていますので、その自分のバックグラウンドを代表して、今回は2つなのですけれども、それぞれどちらでも、自分たちの置かれている状況から考えてこういった問題にはこういう配慮が欲しいとか、こういう方面についてもうちょっと深く掘り下げてほしいとかというようなご意見をいただきたいと思いますと思ひまして、積極的にご参加いただきたいと思いますと考えております。

そういうことを事前の協議の中で話し合ひまして、今回の提案は、ツール検討部会と災害時支援検討部会ということで、前回の議事録を読ませていただいた中で、ツールに関しては、切れ目のない支援をするとか、あと、障害分野以外の人との意思疎通を図るためにも、やはりそういうツールがあることが支援につながるというご意見もありましたので、完成形がこの協議会でできるほどの時間の余裕はないとは思ひうのですが、どういった方面に配慮して、どういう方向でつくったらいいかというようなものをぜひツール検討部会、専門部会で協議していただきたいと思います。

専門部会ではないのだけれども、権利擁護としての虐待防止に関しましては、本年10月から施行されるのですが、これは、皆様からの困難事例等々で出てくるような課題の中から、事務局ないし運営会議のほうである程度整理していただきまして、その中で、全体会でどう協議するかという、たたき台ではないですが、そういったものを一応事前に用意して、次の10月に予定されているのですが、第2回の全体会において皆様にご協議いただきたいと思います。

相談支援について、この4月からサービス利用計画書が必須になりまして、その点について、公平性をどう担保するのかとか、その辺のところがか気にかかるというようなご意見をいただいたのですが、これは、運営会議のメンバーが相談支援事業所の方に入っていますので、そこで一度ご議論いただきまして、その中で出てきた課題を整理していただいた上で、全体会で協議したいという方向性を考えております。

ちょっと雑駁な説明ですが、ここまででご質問、ご意見があれば伺いたいと思ひますが、いかがでしょうか。

■委員

簡単なことで、協議事項の(1)のイの災害時支援検討部会で、例えば、どのようにするかは部会に入った人が決めると思ひうのですが、市が実際に地域防災計画の見直しとか運営マニュアルを策定しているのだから、そこに反映されることを目指してということですが、その結果が反映されるのか、それともそういう会議のときにだれか説明

に行くか、ちょっと反映のされ方の具体的なあり方が一体どのような感じになるのか、イメージを教えていただければと思ったのですが。

■会長

私のほうも、市の地域防災計画が、今どういう状況で検討中なのかを知らないのですが、具体的にどういう形で反映されるかというのはわからないのですが、私の頭の中にあるのは、専門部会で細かいいろいろな配慮が必要なことについて整理していただいて、それをまとめたものを市長に報告することによって、市の防災計画に反映させるという方向を一つ考えておりますが、そのほかに補足することがあればお願いしたいと思います。

■事務局

今、会長がお話のとおりと考えますが、ほかに、専門部会の委員さん方の中で、オブザーバーとして防災課の職員に来てもらって、現状、府中市の見直しがどういうふうに進んでいるのか、その辺の説明を受けて、その中で障害者への支援という立場でのご意見をいただければ、もうその時点で防災課のほうにダイレクトにその辺が伝わる、そういった方法も考えられると考えています。

■会長

今の説明でよろしいでしょうか。拓く会で防災に関する懇談会をしたのですがけれども、やはり防災課が考えている視点と、私たちがいざとなったときに、例えば支援の手を必要とするときを想像して考える視点と、かなりずれがあったりするのですね。市の防災計画は25万人の市民をどうするかというところで。でも、障害者の場合、例えば、まず避難所に行かない人がすごく多いとか。市の防災計画だと、避難所の運営をどうするかですけれども、避難所に来ない人のことまではなかなか想像がつかないなど、やはりその辺の意識のずれというものがかかなりあると思うので、その辺をクリアにすることによって、市の防災計画が少しでもいろいろな人に配慮されたものになるようにできたらいいなとは考えています。

ほかに何かご質問、ご意見ありますでしょうか。

■委員

今、防災のマニュアルは作りつつあるところでしょうか。

■事務局

現在、一次避難所のマニュアルというものから作り始めております。内容としては、実際に第八中学校と第三中学校でしたか、ちょっと定かではないのですが、そこで障害の方と、それから地域の方と学校と、実際、避難訓練を実施して、課題等を見つけている、今協議している最中でございます。

ここで、中学校の先生方が、中学校長会と、今、一次避難所の運営マニュアル等について説明会を行うということも聞いておりますし、小学校についても、今後行う予定ということで聞いております。

■委員

それは大体いつごろ完成するのでしょうか。

■事務局

申し訳ありません、そこは防災課のほうに確認しないといけないのですが、地域防災計画を今年度中に見直すという、そこははっきりと聞いておりますので、そんなに悠長な話ではなく、恐らくは今年度中にはということに進んでいるものと考えております。

■委員

ありがとうございます。でも、それまで起こらないことを祈っています。

■会長

よろしいですか。

たしか東京都の防災計画もこの夏をめどにということで改定が進んでいるはずですので、多分市のほうもそれに沿った形で進んでいるのだらうとは思いますが。

あと、すみません、蛇足になりますけれども、例えば社会福祉協議会でも、まちづくりの中で災害に対する備えということも地域懇談会等で話したりもしていますので、その辺をきちんと有機的に結びつけば、いろいろなところでより安全に、より避難しやすく、より快適に避難生活ができるようになるのかと思いますので、ご協力をお願いしたいと思います。

ほかに何かご質問ありますか。

■委員

ちなみに、私は府中市晴見町に住んでいるのですが、あそこで起こったらどこに逃げればいいのか、全然今わからない、どこに行ってもいいのかわからないのです。だれに聞いたらわかるのですか。

■会長

防災ハンドブックって配られましたよね。たしか12月か1月に。

■委員

私は見ていないです。

■会長

各家庭に多分配られたと思うので、なければ、市の窓口に行って、受け取って帰られたら。

■委員

それを見ればわかる。

■会長

一応、避難所マップみたいなものが載っていますね。

■委員

はい、わかりました。

■会長

ほかにはよろしいですか。

■委員

全体会で協議するところをちょっと伺ってもよろしいですか。

■会長

はい、どうぞ。

■委員

イの相談支援のところちょっと伺いたいのですけれども、まさに3年間の経過措置の中で相談支援、障害福祉サービスを受けている方全員をというところで、府中市の場合には委託の3つの事業所がありますけれども、それ以外に幾つかの事業所が手を上げていると思うのですが、そこに関しては、今後そこに組み込んでいくのかどうなのかというところはいかがなものでしょうか。

■会長

これについては、事務局のほうからお答えいただけますか。

■事務局

現状、今のご提示した案では、運営会議でこの相談に関する協議をいただきまして、それを全体会のほうに報告していただくという流れを想定しておりますので、現状では、今回の運営会議に入らせていただいている3つの相談委託事業所のほうで、委員さんでご協議いただくと。

また、これも将来的に、例えばもっと大きな、委託3事業所だけではなくて、全体を巻き込んだ形で部会という形で必要というようなことになれば、他の相談支援事業所の方のご意見もそこで聞きながらという方法も考えられますが、今回ご提示した案では、一応運営会議を通してということで想定しておりますので、そのようにご理解いただきたいと思います。

■会長

よろしいですか。多分、サービス利用計画書についてはこれから、うちもまだつくったことがないのですね。現状、4月以降新しいサービスを利用していないので、現状、まだすぐにつくる必要はないのですけれども、これから3年間のうちに必須ということになると、市内の当事者はかなり混乱すると思われまますので、来年度以降、また新しい、次の自立支援協議会の中で課題になることは想定されますけれども、今回に関しては、一応、最初の取りかかりとしての議論は運営会議のほうでしていただくという方向で考えたいと思っています。よろしいですか。

ほかには何かありますでしょうか。

(※発言なし)

■会長

よろしいですか。

それでは、こちらに掲示させていただきました今年度行われる専門部会については2つ、ツール検討部会と災害時支援検討部会ということで決定させていただいてよろしいでしょうか。よろしいですか。

(※「はい」の声あり)

■会長

では、この2つを設定させていただくということで決めさせていただきます。

(4) 平成24年度府中市障害者等地域自立支援協議会スケジュール(案)について

■会長

では、スケジュールからお願いします。

■事務局

(※資料4について説明)

■会長

ありがとうございます。

このスケジュールはあくまでも案ですので、特に専門部会については、協議の進行具合によって開催日はずれてくることが考えられますけれども、全体会としては、多分こういった流れになろうかと。本日、6月14日が第1回で、この後、何回かの専門部会を経て、ある程度まとまったものを提示していただくのと、あわせて虐待に関するもののたたき台のようなものを用意して、第2回の全体会を開催。それで、第3回を年明け、2月ごろに開催して、最終報告に向けてのまとめをしていくという大体の流れになってはいますが、このスケジュールについてご質問、ご意見があれば伺いたいと思います。

運営会議が8月と9月と1回ずつみたいになっているのですが、相談支援事業者の方は、この運営会議以外にも、毎月連絡会を開いていらっしゃるの中で必要であれば適宜開催していただいて、そのときに、必要であれば正副会長に声をかけていただければ、スケジュールが合えば出席ということで考えたいと思っていますので、お願いします。

一応こういったスケジュールで進めるということでご承認いただけますでしょうか。よろしいですか。

(※発言なし)

では、おおむねこのスケジュールで進めるということで決定します。

それでは、専門部会の担当委員を決定したいと思いますので、2つ、強制ではございませんが、なるべくどちらかに入っていていただいてご検討いただきたいと考えています。

初めに、ツール検討部会のほうに参加したいという方がいらっしゃったら挙手をお願いします。

(※挙手)

■会長

流れの中で、多分、児童部会にいた人は大体こちらに参加されるはずなので、本日も欠席の古寺委員と、あと葛岡委員から交代された小池委員も、特別支援学校の進路担当の先生なので、多分こちらに行かれるのかなと勝手に想像しておりますけれども。あと私と。

ツール検討部会は、これは調布市の「iファイル」という児童向けの書が前にあつ

たんですけれども、その成人版ですね。こういうものを調布市では今つくって、使われているんですね。イメージしているのは、多分事務局も私も、何かこんなような感じのもので、ファイルにして、どんどん差し込んで増やしていけるもので、日々の生活に必要なこと、例えばコミュニケーションはこういったこと、配慮はこういったことが必要ですとか、例えば医療機関にかかっているならば、病歴がこういったことで、飲んでいる薬はこういうものかというようなことであるとか、そういった個人について、子供が学校から通所とかかわるときに、このノートを見せながら、うちの子供はこういう生育歴で、現状こういう状態にあるので、こういうことに配慮した上で通所生活を送りたいといったような引き継ぎに使えるようなツールです。そう言う大体イメージできますでしょうかね。

■委員

ちょっと質問していいですか。すみません、それはどこで管理をされているものですか。

■会長

これは、本人が持っています。大体こういうものは本人が持っています。個人情報の固まりですので。

■委員

精神の方は。

■会長

難しいですよ。

■委員

非常にそういうところが難しく、実は、そういうことはとても大切だと思いますし、ご本人がきちんと管理してくれて、ずっとそれが亡くなるまできちんと受け継がれていけばいいと思っていますけれども、病識の問題とか、明らかにしたくないという問題とか、そういうことで非常にそういうところがデリケートで難しい。でも、いつかはそういうふうなベースに載せていかなければ、絶対にみんな漏れていってしまうと思いますので。わかりました。ありがとうございます。

■会長

精神の方は、今日の新聞に出ていましたけれども、雇用率の算定が義務化になりますよね。そういったところで、うつの方であるとかというものがその辺で整理されていると、多分本人も説明しやすいだろうし受け入れ側も理解しやすいということも考えられるので、その辺で、どういう形にすれば受け入れやすいのかというようなこともご意見をいただければ、大変参考になると思います。

■委員

そうですね。軽い方は軽い方でオープンにされたくないと思われるでしょうし、重い方はその管理の問題をだれがするかと。例えば、肢体とか知的の方たちは、親御さんがまだクリアなうちにそういうことを管理していられるでしょうけれども、精神の方たちは、親御さんが高齢の方が多いので、そのデータをどういう形で蓄積し、

しかも継承していくかということがとても引かかってくる問題だと思いましたので、ありがとうございました。

■委員

学校に行っている間とかそういうところは学校と連携をとりやすいのですけれども、卒業した後に、作業所に行ったメンバーと、あと一般就労のメンバーと、知的障害の子は分かれるのですよね。知的障害は、就職したからといって、自分でそれを書くということはほとんど無理ですね。親がいればそれはいいです。だけれども、親も今は高齢化しているのと、認知症になった親で全然面倒を見ない親もいるのですよね。そういう場合の管理の仕方はどうしたらいいかわからない。

■会長

そういうことも含めて、だれが管理する、どういうふうに書き込んでいくのかという、例えば職場の上司の方と、例えば、み～なが就労支援でつないだりしますよね。そうすると、み～なの職員の方と職場の上司の方でいろいろ協議していく中でこれを埋めていくという作業もある、1つ考えられる。

■委員

そういうみ～なとか、どこかに所属していないフリーの子供たちもいるわけですよ。就職していない。そういう子たちが就職していく中で、事業主さんがそういうことを個別に、具体的には余り深く入ってくれないと思うので、個人で子供にということとは非常に難しいと。その辺の検討はこれからするのですか。

■会長

そうです。その辺を検討しないといけない。その辺の答えがわかっているならば、余り部会でやることはないので、そういう人をどうするかというのを含めて、持ち方について専門部会で検討していただけたらと思っています。

ほかに何かご質問。

■委員

もう一つ、今後なのですが、災害時の支援というときの、これは学校とかそういうものは団体でいいのですけれども、小さな作業所とか、あるいは、ちょっと今、私は児童に係わる施設をやっているのですが、小さなところのそういうものはどういう形で連携をとっていくのかというのをちょっと検討、検討するのはこれからするのですけれども、すべて検討するのですけれども。

■会長

例えば災害のほうの部会であれば、福祉避難所をどうするかと1つあると思うのですよね。皆さんが行っている通所施設を府中市に福祉避難所として指定してもらって、例えば何かあったときに、そこは避難所なので救援物資を必ず運んでくださいねとか、連絡をしてくださいねというふうにしてくださいと言うのか、あるいは、やはり在宅の人が多いため、その連絡をどうするかというのをあらかじめ想定するとか。やはりその辺のことをきちんと一つ一つ考えていかないと、この間の東日本大震災でも、結構、家に取り残されて孤独で耐えていた人がすごく多いというのを後から聞いていま

して、やはりその辺、どこにどういう人がいるというのをまず把握するのが1つと、あと、その人たちにどうやってつなげていくのかというようになところをきちんと整理して、それを防災課にお知らせすることによって、一人でも漏れる人を少なくしたいと思っています。

それは、私の個人的な考えです。

あとはいかがですか。よろしいですか。

さっき、委員を決めようとしていたのですよね。そうすると、ツールのほうが、犬飼委員と私。

専門が近い方が一つの部会に固まらないように分かれるというのはいかがでしょうか。では、ちょっと相談されますか。

■副会長

前回の全体会の際にいろいろ皆さんで意見が出て、結局、児童、成年、壮年の3部会で出た課題とかをどうするのだという話も出たのですが、それを実はツールの部会で、マンパワーや施設のなさの問題とかはちょっとほかに置いておくしかないのですが、それ以外での今おっしゃられたような問題、だれに相談すればいいのか、だれが管理するのかとか、こういう問題があるというものをそのツールに入れ込めるような形にするのがいいのかなと思いますので、できれば、児童、成年、壮年をやっていた方たちが、ツール部会にそれぞれ入ったほうが本当はいいのかなとは思っています。

それとは別に、また災害のほうで専門部会が開かれて、それぞれの持っている課題、問題点をそれぞれ出し合って検討してもらおうという形で考えられればと思いますので、よろしくをお願いします。

■会長

ちょっと相談しますか。

(※相談)

■会長

相談がまとまりましたか。

では、改めて、ツールのほうに参加したいという方は挙手をお願いします。

(※挙手)

■会長

犬飼委員、大木委員、中川委員、見ル野委員、多分、小池委員、あと古寺委員ですかね。で、私、河井です。では、災害のほうの挙手を。

(※挙手)

■会長

桑田委員、石橋委員、岩崎委員、真下委員、真鍋委員。

行本委員につきましては、災害時のセンターとしての支援の仕方とかもいろいろあったりするので、またオブザーバーとしてのご出席をお願いすることもあろうかと思うので、ご協力をよろしくお願ひしたいと思います。

では、委員が決まりましたところで、この後、会議室の予定がありますので、決め

られた専門部会に分かれていただいて、日程等調整をしていただき、最初に部会長、副部会長を決定していただいて、スケジュール等を決定していただきますが、その前に、事務局から確認をすることがあれば。

では、とりあえず、いったん分かれていただいて、専門部会で部会長、副部会長を決定していただきたいと思います。

(※各専門部会に分かれ、協議)

(※専門部会の協議後、解散)